

1. 土砂災害とソフト対策

1.1 土砂災害の特徴とソフト対策

我が国は豊かな四季がある反面、国土の7割を山地が占め、地勢的に脆弱なうえに毎年のように各地で豪雨が発生するなど、常に自然災害と隣り合わせとなっています。

数多い自然災害の一つに、大雨の際など突如として土砂や岩が建物などに襲いかけてくる土砂災害があります。土砂災害は浸水害等と比べ、突発的で人的被害につながりやすいといった特徴を有しています。

これまで国や都道府県による行政機関では、事前防災の考えに基づき、砂防えん堤等のハード対策を重点的に進め、一定の防災効果を発現してきました。

しかし、近年、地球温暖化に伴う気候変動の影響もたらす豪雨の激化や頻発化によって、これまで整備してきたハード対策の施設能力を上回る大規模な災害外力の発生が多発しております。

さらに、少子高齢化の急速な進展や人口、資産の一極集中といった社会情勢の変化から発災時における避難行動は難化、複雑化しており、土砂災害に関する被災リスクはいっそう高まっています。

こうした状況は決してどこか別の場所や地域に限ったことではありません。

幸いにして、本県では近年大きな土砂災害が発生していないだけであること、そして、将来的に発生する時期の予測は極めて困難であることを十分に認識し、『災害が発生しやすい』というよりも『災害はいつでも発生する』という危機感を持って、一人一人が適切に災害に対処できるようソフト対策を進めていかなければなりません。

ソフト対策は、県や市町村など行政だけの取組だけでは十分な効果は得られません。切迫した災害に直面し、想定外の事態においても適切に対応できるよう、地域をはじめ学校や施設関係者など多くの方々が我がこととして、主体性を持って平時から正しく備えておくことが必要となっています。



土砂災害の特徴と被害事例

1.2 防災教育の目的

中央防災会議の提言では、目指す社会として住民が『自らの命は自らが守る』意識を持って自らの判断で避難行動をとること等が示されています。また、そうした住民主体の防災社会の構築に向け、学校等と連携した防災教育の充実が求められています。

なお、防災教育は子どもや学校関係者の土砂災害への理解を促すことだけが目的ではありません。

土砂災害は学校等での活動以外の時にも起こりうるものであり、子どもから家庭、さらに地域へ防災対策の普及啓発を図るためのきっかけづくりとして、出前授業などを活用していただくことで地域防災力の向上によりいっそう大きな効果を発揮します。



中央防災会議による提言

2. 土砂災害に関する出前授業

2.1 出前授業による防災学習



テキストや動画などを使って土砂災害の特徴や防災に関する取組などを紹介します。この写真を撮影した時は地域や父母の方々も参加いただきました。



模型に触れながら土砂災害の発生メカニズムや砂防施設の働きや効果などを説明します。実際に動かしながら、よりいっそう理解を深めていただくことができます。



学校の周辺状況や各市町村の防災対策、その他ご要望などを踏まえ、個別にテキストやスケジュールなどを作成します。テキストなどの電子データも提供しますので、出前授業以降の二次利用も可能です。

出前授業の様子

2.2 子ども達の感想

子ども達の感想からは出前授業を通じて、日ごろから正しく備えておくことの大切さを感じていただけたことが伺えます。

～ 子ども達の感想 ～

- 土砂災害がとても危険だということが分かった。
- 土砂災害が起きてから逃げるのは遅いから、日ごろからの準備が大切だと分かった。
- 土砂災害の前ぶれに気づくためにも、正しく理解しておかなければならないと思った
- 日ごろから災害に注意しているからこそ、災害は起きにくいし、起きてても防げるのだと思う。



山形新聞（令和3年6月18日）

2.3 取組内容

学校や学区内における災害リスクなど地域特性のほか、参加人数や時間的な制約などの様々な条件に合わせて個別に実施する内容を決めています。主な取組として次のようなことを行っています。

教材学習	動画学習
	
模型学習	現場見学
	
避難訓練	情報伝達訓練
	

避難訓練や情報伝達訓練を行う際は、市町村の防災担当課など関係機関との連携も重要です。出前授業を開催する当日の対応だけでなく、開催に向けた調整や準備等のご支援もいたします。

ご不明な点等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。

(令和4年3月作成)
 山形県 県土整備部 砂防・災害対策課
 砂防企画担当 023-630-2225